

泊小児童、そば作り体験

宮古島で離島宿泊交流



離島体験学習促進事業で宮古そば作りを体験する泊小学校の児童ら=宮古島市

【宮古島】沖縄本島の小学生が離島地域の魅力や困難性を実感するための離島体験学習促進事業がこのほど、宮古島など5島で開かれた。宮古島が訪れ、農業体験や地元

泊小の児童らは、12月26日に同市総合博物館で城辺公民館で交流会を開きレクリエーションなどを楽しんだ。27日には畜産農家で牛の飼やりや野菜農家でゴーヤーの収穫などを体験し、午後には

楽しんだ。

泊小学校（長尾栄正校長）の38人

宮古島で、本土で児童ら交流

池間湿地で野鳥の生態観察などをした。28日は同市の体験工芸村で工作やそば作りをした。同事業は、沖縄本島の住民が離島への関心が低い現状を踏まえ、将来を

担う児童生徒が離島の重要性などへの認識を深め、本島との交流促進によって離島の活性化を図ることを目的に実施された。2012年度までの3年間実施される。

葉君（12）は「ゴーヤーの受粉と収穫をした。全部楽ししかった」と笑顔を見せ、初めて宮古島を訪れたという渡眞利祐紀君（12）は「サトウキビがおいしかった。また来てみたい」と話した。

子どもたちも日本らしい味わえない離島の生活を楽しんだ。6年生の羽賀万

葉君（12）は「ゴーヤーの受粉と収穫をした。全部楽ししかった」と笑顔を見